

公民館事業の報告

公民館名	事業名		頁
本館	成人教育事業	成人学校「作ってあそぼう！親子で昔あそび体験」	1
貫井南分館	成人教育事業	成人学校「ハワイアンリボンレイネックストラップ製作」	2
東分館	成人教育事業	成人学校「正しい姿勢と歩き方で健康UP」	3
緑分館	少年教育事業	子ども体験講座「もえるってなんだろう？線香花火をつくろう」	4
貫井北分館	NPO法人 独自事業	図書館貫井北分室公民館貫井北分館連携事業「第4回「死生観」を語り合うひととき」	5

本 館

成人学校

作ってあそぼう！親子で昔あそび体験

目 的 夏休みの思い出に、親子時間を楽しみながら工作等、昔あそびを体験する

日 程 令和5年8月26日（土）午後2時から4時まで

内 容 ぶんぶんごま・プラとんぼの工作、お手玉と竹がえしで実際にあそぶ

講 師 亀岡 哲也さん 他（小平昔あそび応援団）

場 所 公民館本館 学習室B

募集方法 市報8月1日号、月刊こうみんかん8月号、チラシ、ポスター、HP、ツイッター、Eメールまたは往復はがき、申込入力フォーム（申込多数の場合、抽選）

対 象 市内在住、在勤、在学の小学生とその保護者

人 数 募集 10組
応募 6組
受講 6組

担当企画実行委員 武藤 美奈子、藤原 美知江、大木 健至

担当職員 近藤 英里子



担当職員感想 是非昔あそび体験講座をとなり、開催しました。少人数ながら親子で楽しい時間となり、保護者からも好評で良かったです。夏休み期間は子ども達も地域イベントがあつたり保護者世代も忙しいため、今後は開催時期も検討しつつ、募集周知に努めたいと思います。世代の継承も大事にしていけるような講座も継続したいです。

参加者感想

- 子供達もとても楽しく喜んでいました、ありがとうございます。
- 親子で参加して楽しかったです。
- 歴史や知識も教えてくれたのが良かった。
- 子どもが夢中になって遊んでいて良かったです。

貫井南分館

成人学校	「ハワイアンリボンレイ ネックストラップ製作」
------	----------------------------

目的 市内で活動する講師を招き、机を囲んでおしゃべりしながら手作業をするものづくりを通し、地域コミュニケーションを図る。

日程 令和5年9月30日（土）午前10時～正午

内容 リボンを編んでネックストラップをつくる

講師 加嶋 ちあきさん（リボンレイインストラクター）

ところ 公民館貫井南分館 学習室A・B

参加費 1,000円（材料費）

募集方法 市報9月1日号 月刊こうみんかん9月号 チラシ 市ホームページ Twitter

申込多数の場合、抽選

申込フォーム、Eメールまたは往復ハガキ

人数 募集 15人 応募19人（女性19人）

受講 17人（女性17人）

参加年代 20代1人 30代1人 40代1人 50代2人

60代6人 70代5人 80代1人

担当企画実行委員 高橋 陽子

担当職員 永嶋 汐美

担当職員感想

初心者向け講座として、講師の方と試作を行ったが、始めると難しいのか完全に完成させた方は多くなかった。

製作中に「ウクレレサークルに入りたい」という参加者に貫井南分館を利用しているウクレレサークルの方が参加者にいらっしゃったので紹介するなど手作業を行いながらの会話が弾み、地域コミュニケーションの主旨にあった講座となったと思う。



参加者感想

・何度も教えて頂きまして、ありがとうございます。家でもう一度やりたいと思います。

・かねてから作ってみたいと思っていたので大満足です。

・時間足りず完成できず残念でした、家に戻って頑張ってみます。

・楽しく参加させていただきました。又別のこともやりたいです。

・思った以上に大変でしたが、楽しく時間を過ごせました。ありがとうございました。



緑 分 館

子ども体験講座

もえるってなんだろう？線香花火をつくろう

目 的 燃えるとはどういうことか実験をとおして学び、科学に興味を持ってもらう。

日 程 令和5年8月27日（日） 午後2時から4時まで

内 容 実験をとおして燃えるとはどんなことか学び、最後に線香花火を自分たちで作る。

講 師 坂口 美佳子さん（科学読物研究会会員）

場 所 公民館緑分館 学習室

参加費 200円（材料費）

募集方法 市報7月15日号、月刊こうみんかん7月号、ポスター、チラシ、市HP、市ツイッター
申込多数のときは抽選
往復はがき、メール、LoGo フォーム

対 象 市内在住・在学の小学生

人 数 募集 20人
応募 63人
受講 21人

担当企画実行委員 後藤 愛子

担当職員 田中 響

参加者感想 ○知らなかったことが知れてうれしかった。楽しかった。
○線香花火をきれいにつくってたから2こしかできなかつたけど、たのしかった。
○ありがとうございました。来年、自由研究にしてみたいです。
○はなびのなりたちがわかってとてもおもしろかったです。
○ロウソクに鉄のこなをかけたときがすごいきれいだった。
○紙と木いがいに鉄のこなとかがもえるなんてしらなかつた。

貫井北分館

(NPO 法人独自事業) 図書館貫井北分室・ 公民館貫井北分館連携事業	第4回「死生観」を 語り合うひととき
--	-------------------------------------

- 目 的** 超高齢社会・多死社会を迎えて、死が身近な日常となる社会になりつつある。死について楽しく気軽に語り合うことで、ACP（人生会議、末期治療）の疑似体験をしていただく。
- 日 程** 9月10日（日）午前10時～午後0時30分まで
- 内 容** （1）ACPの疑似体験が出来る「どせばいい？カード」（津軽弁）をクラウドファンディングで制作された高橋伸一さんによる講義。
（2）参加者を4グループに分けた後、「どせばいい？カード」を用いて死生観について語り合う。参加者全員で振り返り。
- 講 師** 高橋伸一さん（中央福祉会特別養護老人ホーム三思園看護師長）
吉川直人さん（京都女子大学 助教）
小口千英さん（デスカフェ主宰者・看護師）
- 場 所** 公民館貫井北分館 学習室A・B
- 募集方法** 市報8月15日号、チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ
- 対 象** 小学生以上
- 人 数** 募集20人 応募14人 受講20人（講師3人、職員3人）
- 担当職員** 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、新井 剛
- 担当職員感想** 参加者の年齢層が大学1年生の10歳代から90歳代までの幅の広い講座となった。4班に分かれてのワークショップでは各年齢層が考える死生観について互いに気づきの多い時間となったと思われる。
- 参加者感想** ○ 哲学的な話などが好きだったので参加してみた。大学生ということもあり、学校の外でいろいろな年代や背景をお持ちの方と交流する機会は刺激になりました。
○ 死についてこのように考える機会がなかった。自分にとってとても良い機会になった。イベントを通して死生観が各自で異なっていることや若者が言う「死」とそれを聞いた大人が思う「死」が違うことに驚いた。とてもためになるイベントだった。